

皆さんの願いを実現させるため 3人の市議は粘り強く頑張っています

▶小児医療費助成は小学6年生まで拡充

保護者の皆さんの声を党市議団が議会で何度も要求してきた小児医療費無料化は所得制限はありますが、小学6年生まで実現。さらに中学校3年生までの無料化に取り組んでいます。



▶特養ホームは6から11へ増設

介護保険制度が始まり、必要なサービスを自由に選べると言われる中で、特養ホームの不足は深刻でした。議会で市民の悲痛な声を何度も訴え続け、当初市内に6か所しかなかった特養ホームを11か所にまで増やすことができました。待機者をなくすためさらに要望していきます。

▶地震時、小中学校での保護者の引き取りの基準を明確化

東日本大震災までは、保護者の引き取りの基準は明確ではありませんでした。議会で取り上げ、引き取りは小学校は震度5弱以上、中学校は震度5強以上にと明確になりました。また、小学生は保護者が引き取るまでは、学校が責任を持つことも決まりました。

▶相模川、堤防未整備個所の完成を急げ！

議会で質問し、右岸河口付近の堤防整備は国の計画を1年短縮させ2013年度に完成しました。また、遅れている四之宮地区の堤防未整備個所を急ぐよう求め、2016年の早期完成を目指すとの答弁を得ました。

▶救急隊1隊増隊に(2016年度より)

平塚消防の救急出動が大幅に増える中で、議会で再三1隊増隊を求め、2016年度から増隊することが決まりました。

▶耐震シェルター設置補助実現

遅れている民間木造住宅の耐震を補完するため安価で対応できる耐震シェルターの導入を提案し、補助制度が実現しました。

▶大型墓地建設に反対！住民と住環境優先の条例を制定

家のすぐそばに大型墓地を造る計画が突然浮上！こうした問題が全国各地で起こっていました。県から権限が委譲されるに当たり、住民の方々の声を議会に届け、住民、行政と一緒に住環境を守る市独自の条例が制定されました。

▶議案提案権を行使し、集団的自衛権は慎重に対応することを求める意見書を提出

議会では反対多数で否決されましたが、賛成議員6名で「行使容認に反対」の意見書を国に提出しました。



▶毎週「議員団ニュース」を発行し、活動報告！

これまで歴代の党議員団が一貫して「住民が主人公」の立場で、市民の声を議会に届け、その結果をお知らせしてきました。今年の2月末で議員団ニュースは1300号になります。これからもさらに読みやすいニュースづくりに努めます。

主な請願・意見書に対する 各会派の態度	日本共産党	清風クラブ	湘南フォーラム	公明ひらつか	平塚自民クラブ	無所属
原子力発電による災害の対応についての請願	○	×	×	×	×	○ ×
「社会保障と税の一体改革」に反対する請願	○	×	×	×	×	○ ×
消費税増税反対の請願	○	×	×	×	×	○ ×
集団的自衛権行使慎重に	○	×	×	×	×	○ ×
老人医療券の継続を	○	×	×	×	×	○ ×

日本共産党は 政治を墮落させる 政党助成金・小選挙区制 の廃止を目指します



政党助成金は廃止・・・1995年の導入以来、20年間の合計で6311億円の助成金がばらまかれました。

この間、政党助成金目当ての政党の離合集散が繰り返されました。これによって新たに誕生した政党は60近くにもなります。これまで政党助成金を受け取った政党は43党。そのうち消滅した政党は33党にも及びます。

理念も政策もないただただ助成金がほしい、この一念で繰り返されてきた離合集散。あまりにも浅ましく、恥ずかしい政治ではありませんか。

小選挙区制の害悪・・・この制度が施行されてから20年で、深刻な形でその害悪が明らかになっています。

小選挙区制は、第一に大政党有利に民意をゆがめ、「独裁政治」に道を開く危険極まりない制度であること。第二に「1票の格差」を是正することが事実上不可能な制度であること。第三に「1人区で勝つ」ことを最優先に、政策も理念も投げ捨てた野合、離合集散など、政党の劣化と墮落をもたらす制度となっています。それらをなくして、国民の1票1票がいきた制度に切り替えましょう！

皆さんの願い実現に全力をあげます



市議会議員

高山 和義

1953年平塚市桃浜町生まれ。市立花水小、浜岳中、県立平塚江南高校、桜美林大学卒。コープかながわに30年勤務（河内、大磯、二宮の各店長）。マンション管理業務主任者。2011年初当選。趣味は旅行、歴史小説。家族は母。平塚市桃浜町。

- ▼ 市民が望まないツインシティ計画は白紙に戻すこと
- ▼ 災害に強いまちづくりを
- ▼ 国民健康保険税の引き下げを
- ▼ 中学校3年生まで小児医療費無料化を
- ▼ 中学校給食の実現
- ▼ 商店のリニューアルにも使える住宅リフォーム助成制度の実現を
- ▼ 特養老人ホームの増設を
- ▼ 高齢者対策
 - * 災害時の要援護対策
 - * 交通不便地域対策
 - * 見守り対策
- ▼ 各店舗が将来に展望が持てる経営アドバイスで商店街の活性化を
- ▼ 空き家対策、まず実態調査を

財源はあります。

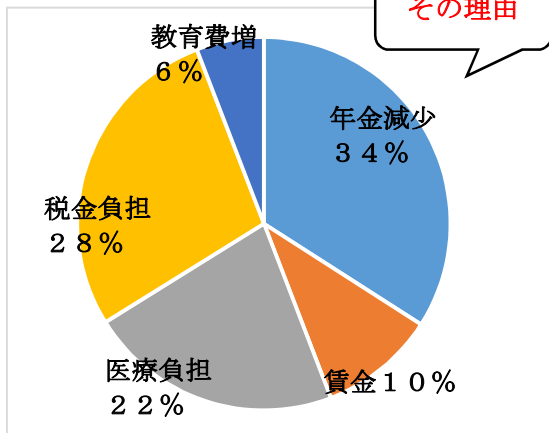
○ 財政調整基金を活用すれば可能
 現在平塚市の財政調整基金は70億円あります。毎年の黒字は30億円となっています。基金などのほんの一部を取り崩せば中学校給食や小児医療費無料化は可能です。（※ 財政調整基金とは、使い道が限定されず自由に使える預金です。）

○ 議員の海外視察、各種委員会報酬の見直しを
 海外視察費用として、毎年議員1人当たり24万円、計720万円が計上されています。市民生活が厳しい中、海外視察は中止すること。また、議員が市の設置する各種委員会・審議会に出席した場合の委員報酬は廃止すること。これらを見直し、市民のために使うべきです。

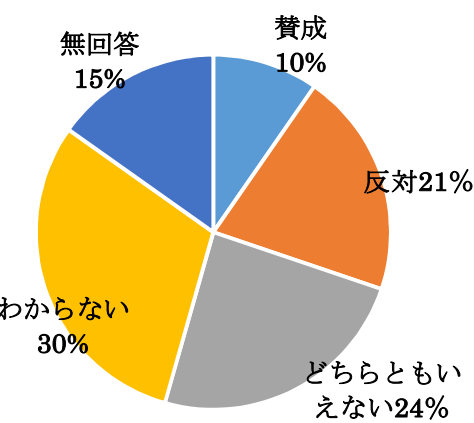
最終結果

市民アンケート、「生活が苦しくなった」72%も！

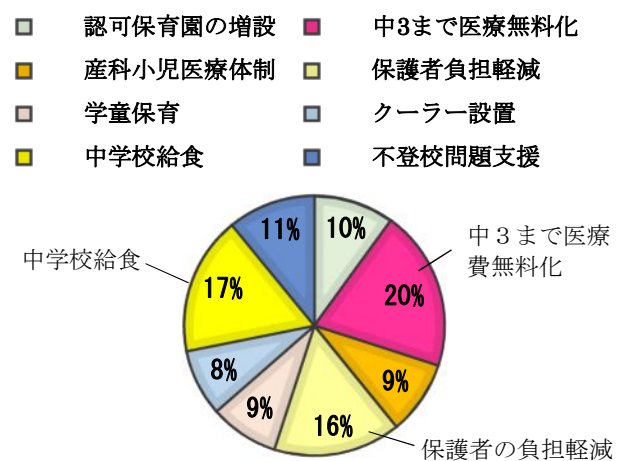
生活が苦しくなったと答えた人は全体の72%（4年前68%）



ツインシティについて



望む子育て支援



「自共対決の時代」



安倍政権の暴走ストップ！
 日本共産党の5つの転換

- 消費税10%は「先送り」でなく、きっぱり中止を！
- 格差拡大の「アベノミクス」ストップ！暮らし第一で経済を立て直す
- 「海外で戦争する国造り」許さない。憲法9条を生かし平和外交を！
- 原発再稼働許さない！「原発ゼロ」の日本を
- 辺野古への新基地建設ストップ！普天間基地の閉鎖・撤去

その他

- 市政に望む施策で一番多かった要望は国保・医療負担の軽減、第2は介護保険料の引き下げ。
- 自転車走行マナーの指導と専用通行帯の設置。
- 生活道路の整備、防犯灯の増設。